

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第72号

[2015年4月号]

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第72号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

<目次>

メソトマンスリー

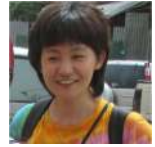
国内から

編集後記

次号の予定



メソトマンスリー



【メソト＝鈴木 みどり】

最近のメソット

皆様 こんにちは。

日本では、新年度が始まり、学校でも職場でも忙しい毎日でしょうか？
私も2年前までの日本での生活が懐かしく思い出されます。

タイでは、この時期はまだ新年度の始まる前の長い夏休み期間です。タイやミャンマーの正月を祝う時期でもあります。移民学校も休み中で、寮生も帰省しています。メータオ・クリニックでも長い休暇を取ってミャンマーに里帰りしているスタッフが多く、比較的静かでのんびりしています。

タイの正月(ソクラーン)は4月13～15日の3日間ですが、ミャンマーでは13～16日の4日間で、タイより1日多いです。メータオ・クリニックもミャンマーに合わせてこの4日間はお休みでした。この時期私も休暇を取り、バンコクとメソットで過ごしました。



水掛け祭りの元々の意味は、水を掛ける事で、相手の災いや不幸を取り除く、そして綺麗になって新年を迎えるという事のようなのです。道行く人に水を掛けまくる無礼講です。ソクラーン期間中に水掛けによる被害にあっても、損害賠償の請求はできないと法律で決まっているのを最近知りました。お祭り好きには最高のイベントです。

私はずっと濡れたくなくて初日は避難して部屋に籠っていましたが、2日目から友人に誘われて参加しました。

まずは準備が肝心です。水鉄砲から目を保護するためのサングラス、ビニールの小物入れ、応戦用の水鉄砲、アロハシャツ(ソクラーンの時期はこれを着るのが好きなタイ人が多いです。)が町のあちこちで売られています。私もしっかり準備しました。

正月2～3日目に、バンコクで有名なカオサン通りやシーロム通りに行きました。

やはり昼間は凄く暑いので、人がそれ程多くはなく、お昼頃まではどちらでもすいすい動けました。水鉄砲での応戦も楽しく、タイ人も外国人も関係なく激しいです。途中から水掛けしてくる人の顔にタナカ(ミャンマーの皮膚を保護するペースト)を塗って応援したり、踊ったり、そこにまた水を掛けられたりして楽しみました。

夜になると人混みが激しくなり、身動きがとれなくなるほどで、日本の初詣のようでした。

翌朝16日にはメソットに戻りました。

アパートの大家さんからメソットではソクラーンは終わったと聞き、油断して自転車に乗っていたら、トラックに乗った若者たちに水を何度も勢いよく掛けられました。やはり、



メーソットは国境の町で、ミャンマーと同じく1日長いソンクラーンでした。

道路のあちこちで、車からバケツで水を掛けられました。勢いはバンコク以上で一度で全身水浸しです。最初は怖かったのですが、慣れると昼間は気持ちいいです。すっきりした気持ちになれました。

翌日からはまた仕事が再開します。スタッフ達もクリニックに戻ってきます。

みんなの元気な姿を早く見れますように。

今はとても暑い時期ですが、雨期が始まるまでの辛抱です。貴重なメーソットでの時間を出来るだけ楽しみたいと思います。

国内から

【東京＝高原】

私は一昨年のスタディーツアーに参加させていただき、ミャンマーとタイの国境にある難民キャンプなどを訪問する機会を得たことから、一度ミャンマーを見たいと思い、平成26年の夏休みを利用してミャンマーに行つて来ました。今回はその旅行で感じたことを書かせていただきたいと思います。

ミャンマー旅行で一番感銘を受けたことは何と言っても、ミャンマーの方々の優しさです。

私はシンガポールから空路でヤンゴンに入国したのですが、できるだけ現地の方々と接したいと思い、空港からはタクシーで町の中心に行くのではなく、バスに乗って行きました。バスの番号はビルマ数字なのでどのバスに乗ればいいのかわからず、バス停で待っている学生らしき男の人に聞きました。すると、その人は英語が通じなかったのですが、私のバス代も払ってくれた上に、大雨の中わざわざ宿泊するホテルを探してホテルの前まで連れて行ってくれました。

又、歩道を歩いていて車のドアに額をぶつけて少し額を切ってしまった時には、店の店員の女性がバンドエイドを持って来てくれました。その他に書き切れないほど本当に親切にしてくださいました。



【写真：上】ヤンゴン市内を走る日本の中古バス。

このバスは非常に新しいが、40～50年前のバスが、エンジンむき出しで今も現役で走っている。車内では少し不良っぽく見えるお兄ちゃんが乗客からバス代を集めている。行先を告げると親切にもそのお兄ちゃんはきちんと停留所が近づいたら教えてくれる。車は右側通行



なので、バスの出入口は右側に改造して作ってある。車内・車外の表示も昔の日本語のまま。一般車もほとんどが日本の中古車。



【写真：上】ヤンゴンの中心のシンボルマークとなっているスーレー・パゴダ。

次に、びっくりしたのは日本語の話せる人々が非常に多いということです。電話をかけるために入った店の主人も日本で働いていたことがあるということで、非常に流暢な日本語で日本での話を聞かせてくれました。また、長距離バスターミナルからバス停までの行き方がわからず困っていた時には、近くにいた男性が日本語でやさしく説明してくれて、バス停まで連れて行ってくれました。他にも日本語の上手な方々に多く出会い、遠く離れたミャンマーで日本語が聞けるとは思ってもみなかったので大変びっくりしました。

観光ということではヤンゴンの最大のスポットはシェダゴン・パヤーという黄金の仏塔です。信者から寄進された金箔で寺中が黄金で光り輝いていました。ただ、神聖な仏塔の入口には寄進するために各銀行のATMがずらりと並んでいて少しびっくりしました。又、ご本尊の頭部にはパチンコ台の上部にあるような電光版がきらきら光っており、仏像の有り難さの表現方法の違いに驚きました。仏塔の門前には寄進の受付所があり沢山のの方々でにぎわっていました。本尊の前では一心に祈る人で一杯で人々の信心深さがよくわかりました。



【写真】ミャンマーの最大の聖地、シェダゴン・パヤー。

ミャンマーの伝統歴は八曜日。1週間が8曜日（水曜日が午前と午後に分かれている）となっており、人々は自分の生まれた曜日を大事にしている。仏塔の周りには小さな祭壇があ

り、自分の曜日の守護神に祈りを捧げる。



【写真：左】シェダゴン・パヤーの本堂に続く参道。寺院の敷地内は全て土足厳禁なので、参道の入口で裸足になって進む。 【写真：右】本堂前の銀行のATM。

現在、多くの日本企業が東南アジア最後のフロンティアとしてミャンマー進出を計画しています。ミャンマーの方々は、真面目で控え目な印象で、相手の気持ちを読んで寄り添おうし、おもてなしの精神も旺盛で日本人の性格によく似ている気がします。非常に親日でもあり、今後最良のパートナーとして一緒に発展していけることを願っています。

編集後記



先日、羽田空港に行くのに蒲田駅を通ったら、改札から、こんなフラガールが出てきてびっくり！



